

I. 生産性向上のため、平成28年度に、製造業の『カイゼン活動』等のノウハウを活用し、コンサルタント等の助言等を受けて貴事業所で取り組まれたことにかかる現状および効果について
 Q1. コンサルタント等の助言等を受けて取り組まれたことを、現在も続けられていますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
現在も続けている	30	93.8%
現在は取りやめており続けていない	2	6.3%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

Q2. コンサルタント等の助言等を受けて取り組まれたことによって、どのような効果がありましたか？(あてはまる番号すべてに○)

選択肢	回答数	%
作業時間や移動時間、作業工程を減らすことができた	15	46.9%
業務に従事する担当者の人数や作業量を減らすことができた	7	21.9%
商品やサービスの提供にかかる機材や設備を減らすことができた	1	3.1%
商品やサービスの提供にかかる費用を減らすことができた(品質不良の発生や廃棄ロス、在庫の削減等を含む)	4	12.5%
より質の高い商品やサービスを提供できるようになった	9	28.1%
より高単価の商品やサービスを提供できるようになった(顧客単価の上昇等も含む)	6	18.8%
より早く商品やサービスを提供できるようになった	6	18.8%
(人員を増やさずに)より多くの商品やサービスを提供できるようになった	3	9.4%
従業員の仕事に対するモチベーションがあがった	8	25.0%
業務の見直しや改善活動に対する従業員の意識が高まった	21	65.6%
その他	2	6.3%
合計	82	

II. 平成28年度にコンサルタント等の助言等を受けて、生産性向上のための取組を実施した後の貴事業所の状況について

Q3. 平成28年度と比べて、平成29年度の収益状況(営業利益)はどうなりましたか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
良くなった	16	50.0%
変わらない	11	34.4%
悪くなった	5	15.6%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

Q3-付問1. Q3に対して、平成28年度の取組はどの程度影響があったと思いますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	かなり影響があった	やや影響があった	影響はなかった	わからない	無回答	合計
良くなった	2	10	2	2	0	16
変わらない	2	6	2	1	0	11
悪くなった	0	1	3	1	0	5

Q4. 平成28年度と比べて、平成29年度の従業員の賃金(1か月当たりの1人平均所定内賃金)はどうなりましたか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
上がった	19	59.4%
変わらない	13	40.6%
下がった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

Q4-付問1. Q4に対して、平成28年度の取組はどの程度影響があったと思いますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	かなり影響があった	やや影響があった	影響はなかった	わからない	無回答	合計
上がった	0	10	8	1	0	19
変わらない	0	6	6	1	0	13
下がった	0	0	0	0	0	0

Q5. 平成28年度と比べて、平成29年度の労働環境はどうなりましたか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
改善した(例えば、残業時間が減った、業務上で怪我等が発生するリスクが下がった等)	14	43.8%
変わらない	16	50.0%
悪化した(例えば、残業時間が増えた、業務上で怪我等が発生するリスクが上がった等)	2	6.3%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

Q5-付問1. Q5に対して、平成28年度の取組はどの程度影響があったと思いますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	かなり影響があった	やや影響があった	影響はなかった	わからない	無回答	合計
改善した(例えば、残業時間が減った、業務上で怪我等が発生するリスクが下がった等)	3	9	2	0	0	14
変わらない	0	6	10	0	0	16
悪化した(例えば、残業時間が増えた、業務上で怪我等が発生するリスクが上がった等)	0	1	1	0	0	2

Q6. 平成28年度と比べて、平成29年度の労働力の充足状況はどうなりましたか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
人手不足が改善した(例えば、他の業務に労働力を振り替えられた、離職者が減少した、少ない人数でも業務が回せるようになった等)	5	15.6%
変わらない	21	65.6%
人手不足が悪化した(例えば、人手が足りずに事業を縮小した等)	6	18.8%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

Q6-付問1. Q6に対して、平成28年度の取組はどの程度影響があったと思いますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	かなり影響があった	やや影響があった	影響はなかった	わからない	無回答	合計
人手不足が改善した(例えば、他の業務に労働力を振り替えられた、離職者が減少した、少ない人数でも業務が回せるようになった等)	1	3	1	0	0	5
変わらない	0	6	13	2	0	21
人手不足が悪化した(例えば、人手が足りずに事業を縮小した等)	1	3	2	0	0	6

Q7. 平成28年度に取り組まれたことについて、総合的に考えてどのように評価していますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
収益等の数字に表れるほどの効果があった	2	6.3%
数字にまでは表れていないが、効果があった	23	71.9%
特に効果はわからない	6	18.8%
効果はなかった	1	3.1%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

III. その他の取組について

Q8. Iでお伺いした、平成28年度に取り組まれたこと以外に、その後、生産性向上のために新たに取り組まれていることはありますか？(あてはまる番号一つに○)

選択肢	回答数	%
平成28年度に取り組んだことを、他の工程や作業にも応用している	12	37.5%
別の課題に対して、新たに対応を考えて取り組んでいる	14	43.8%
特に取り組んでいない	6	18.8%
無回答	0	0.0%
合計	32	100.0%

Q8-付問1. Q8で「2.」を選択された方にお聞きします。具体的にどのようなことに取り組まれていますか？(あてはまる番号すべてに○)

選択肢	回答数	%
業務プロセスや作業方法(手順書等の見直し含む)の改善	7	50.0%
店舗、作業現場や事業所等のレイアウトや動線の改善	7	50.0%
紙処理や情報集約の電子化等のIT化	5	35.7%
品質不良廃棄ロス、在庫の低減	2	14.3%
従業員のシフトの見直し、適正な人員配置(多忙な部署への労働力の振り替え)	6	42.9%
既存の商品・サービス等の見直しや新商品・サービス等の開発(サービスの提供内容の充実を含む)	8	57.1%
新規顧客の獲得や既存顧客のニーズへの対応(顧客単価上昇を含む)	3	21.4%
高機能の機材や設備の導入、人手作業の機械化	5	35.7%
人材の育成・能力開発(多能工化を含む)	7	50.0%
その他	1	7.1%
合計	51	

Q8-付問2. Q8-付問1の1~10のうち、生産性の向上という点で、効果が高いと実感されているものを順に、選択肢の数字を記入してください。【全体】

選択肢	回答数	%
業務プロセスや作業方法(手順書等の見直し含む)の改善	6	42.9%
店舗、作業現場や事業所等のレイアウトや動線の改善	4	28.6%
紙処理や情報集約の電子化等のIT化	4	28.6%
品質不良廃棄ロス、在庫の低減	1	7.1%
従業員のシフトの見直し、適正な人員配置(多忙な部署への労働力の振り替え)	6	42.9%
既存の商品・サービス等の見直しや新商品・サービス等の開発(サービスの提供内容の充実を含む)	6	42.9%
新規顧客の獲得や既存顧客のニーズへの対応(顧客単価上昇を含む)	2	14.3%
高機能の機材や設備の導入、人手作業の機械化	4	28.6%
人材の育成・能力開発(多能工化を含む)	7	50.0%
その他	1	7.1%
合計	41	

Q8-付問2. Q8-付問1の1~10のうち、生産性の向上という点で、効果が高いと実感されているものを順に、選択肢の数字を記入してください。【1番目】

選択肢	回答数	%
業務プロセスや作業方法(手順書等の見直し含む)の改善	2	14.3%
店舗、作業現場や事業所等のレイアウトや動線の改善	0	0.0%
紙処理や情報集約の電子化等のIT化	1	7.1%
品質不良廃棄ロス、在庫の低減	0	0.0%
従業員のシフトの見直し、適正な人員配置(多忙な部署への労働力の振り替え)	2	14.3%
既存の商品・サービス等の見直しや新商品・サービス等の開発(サービスの提供内容の充実を含む)	2	14.3%
新規顧客の獲得や既存顧客のニーズへの対応(顧客単価上昇を含む)	1	7.1%
高機能の機材や設備の導入、人手作業の機械化	1	7.1%
人材の育成・能力開発(多能工化を含む)	5	35.7%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	14	100.0%

Q8-付問2. Q8-付問1の1~10のうち、生産性の向上という点で、効果が高いと実感されているものを順に、選択肢の数字を記入してください。【2番目】

選択肢	回答数	%
業務プロセスや作業方法(手順書等の見直し含む)の改善	1	7.1%
店舗、作業現場や事業所等のレイアウトや動線の改善	3	21.4%
紙処理や情報集約の電子化等のIT化	1	7.1%
品質不良廃棄ロス、在庫の低減	1	7.1%
従業員のシフトの見直し、適正な人員配置(多忙な部署への労働力の振り替え)	4	28.6%
既存の商品・サービス等の見直しや新商品・サービス等の開発(サービスの提供内容の充実を含む)	1	7.1%
新規顧客の獲得や既存顧客のニーズへの対応(顧客単価上昇を含む)	1	7.1%
高機能の機材や設備の導入、人手作業の機械化	0	0.0%
人材の育成・能力開発(多能工化を含む)	1	7.1%
その他	1	7.1%
無回答	0	0.0%
合計	14	100.0%

Q8-付問2. Q8-付問1の1~10のうち、生産性の向上という点で、効果が高いと実感されているものを順に、選択肢の数字を記入してください。【3番目】

選択肢	回答数	%
業務プロセスや作業方法(手順書等の見直し含む)の改善	3	21.4%
店舗、作業現場や事業所等のレイアウトや動線の改善	1	7.1%
紙処理や情報集約の電子化等のIT化	2	14.3%
品質不良廃棄ロス、在庫の低減	0	0.0%
従業員のシフトの見直し、適正な人員配置(多忙な部署への労働力の振り替え)	0	0.0%
既存の商品・サービス等の見直しや新商品・サービス等の開発(サービスの提供内容の充実を含む)	3	21.4%
新規顧客の獲得や既存顧客のニーズへの対応(顧客単価上昇を含む)	0	0.0%
高機能の機材や設備の導入、人手作業の機械化	3	21.4%
人材の育成・能力開発(多能工化を含む)	1	7.1%
その他	0	0.0%
無回答	1	7.1%
合計	14	100.0%

Q9. (Q1やQ8でお尋ねした)生産性向上のための取組を進めて行く上で課題と感じることはありますか？(あてはまる番号すべてに○)

選択肢	回答数	%
取組を行うための費用がかかる	12	37.5%
取組を行うための時間がない	15	46.9%
取組を主体的に進める社内人材がない	17	53.1%
取組を行うためのノウハウがない(何をすればいいのかわからない)	7	21.9%
取組の必要性について、経営層の理解を得るのが難しい	1	3.1%
取組の必要性について、従業員の理解を得るのが難しい	10	31.3%
その他	4	12.5%
合計	66	

IV. 貴事業所の基本情報について

従業員数(家族従業員を除く、正社員、契約社員、嘱託、パートタイマー、アルバイト等の派遣社員は除く)人数

選択肢	回答数	%
10人未満	2	6.3%
10~19人	2	6.3%
20~29人	3	9.4%
30~49人	1	3.1%
50~99人	6	18.8%
100~199人	4	12.5%
200~299人	3	9.4%
300人以上	10	31.3%
無回答	1	3.1%
合計	32	100.0%

取組を行った事業所数

選択肢	回答数	%
1ヶ所	9	28.1%
2ヶ所	1	3.1%
3ヶ所	1	3.1%
8ヶ所	1	3.1%
23ヶ所	1	3.1%
無回答	14	43.8%
合計	27	84.4%